

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 酪農振興対策支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部畜産振興課 酪農・飼料係 電話番号：058-272-1111 (内線 2875)

E-mail: c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,306 千円 (前年度予算額：10,306 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,306	5,153	0	0	0	0	0	0	5,153
要求額	10,306	5,153	0	0	0	0	0	0	5,153
決定額	10,306	5,153	0	0	0	0	0	0	5,153

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

酪農家戸数は、過去5年間 (H28~R2) で34戸減、飼養頭数についても957頭減とどちらも大幅に減少している。

また、酪農家の年齢構成は、現在60歳以上が52戸と全体の約半数であり、今後、酪農家戸数の減少は歯止めがかからないことが予想される。

対して、県内産牛乳の需要は高く、需要の高まる6~9月には、生乳の供給がひっ迫し、学校給食に100%県内産牛乳を供給することが危ぶまれる状況にある。

そのため、県内生乳生産量の維持拡大のため、乳用牛の増頭対策、効率的に後継牛を確保する対策、酪農家の経営改善を図る対策を行う必要がある。

(2) 事業内容

① 乳用牛改良増殖推進事業【継続】 1,006 千円

乳用牛の改良や飼養管理の改善を目的とした乳用牛群検定事業などに要する経費の一部を補助する。

② 効率的乳用後継牛確保対策支援事業【継続】 1,500 千円

乳用牛を効率的に確保するため、雌雄判別技術を活用した場合に、その経

費の一部を補助する。

③ 乳用初妊牛増頭対策支援事業【継続】 7,800 千円

増頭を図る酪農家に対し、乳用初妊牛の導入経費の一部を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

効率的な生乳生産を推進し、本県の酪農経営の安定化を図るため、県が事業費の1/2以内を負担する。

(4) 類似事業の有無： 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,306	・ 乳用牛改良増殖推進事業：1,006 千円 ・ 効率的乳用後継牛確保対策支援事業：1,500 千円 対象頭数 100 頭 1 頭当たり補助額 15 千円 ・ 乳用初妊牛増頭対策支援事業：7,800 千円 対象頭数 120 頭 1 頭当たり補助額 65 千円
合計	10,306	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

各種計画における目標乳量

○岐阜県家畜改良増殖計画

- ・・・経産牛 1 頭当たり年間搾乳量 9,200kg (R7)
経産牛頭数 5,200 頭 (R7)

○岐阜県酪農・肉用牛生産近代化計画

- ・・・経産牛 1 頭当たり年間搾乳量 9,200kg (R7)
県内年間生乳生産量 48,000 t (R7)

(2) 国・他県の状況

国：性判別精液の利用、性判別精液生産機械導入等への支援を実施している。
他県：性判別精液の活用に対する助成は 6 県で実施している。

(3) 後年度の財政負担

本県の酪農経営基盤を強化するため、今後も引き続き実施する必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

① 乳用牛改良増殖推進事業

岐阜県酪農農業協同組合連合会は、乳用牛群検定事業等の窓口団体であることから、当該事業を実施するに妥当である。

② 効率的乳用後継牛確保対策支援事業

③ 乳用初妊牛導入支援事業

②、③の事業は市町村、農協、農協連は、地域の酪農振興に携わることから、当該事業を実施するに妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	酪農振興対策支援事業
補助事業者（団体）	市町村・岐阜県酪農農業協同組合連合会 （理由）市町村、農協連は地域の酪農振興に携わることから、当該事業を実施するのに妥当である。
補助事業の概要	（目的）酪農経営の安定に資すること （内容）・牛群検定及び後代検定の推進 ・乳用後継牛確保の推進 ・乳用初妊牛の増頭を推進
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） 乳用牛改良増殖推進事業【補助率：1/2 以内】 ただし上限については以下のとおり 生乳検査費…AT 法 100 円/件、通常法 75 円/件 調整交配推進指導費…上限 5,000 円/人 検定娘牛保留・育成推進指導費…上限 4,500 円/人 検定娘牛分娩調査費…上限 4,500 円/人 検定娘牛計画交配費…上限 6,000 円/頭 効率的乳用後継牛確保対策支援事業【補助率：1/2 以内】 ただし上限については 15,000 円/頭 乳用初妊牛増頭対策支援事業【補助率：1/2 以内】 ただし上限については 65,000 円/頭 （理由） 効率的乳用後継牛確保対策支援事業は性判別技術に係る経費およびリスクに対し助成。 乳用初妊牛増頭対策支援事業は北海道導入と県内導入（東濃牧場の譲渡価格値上げ後（H30.10））との経費差について助成
補助効果	酪農経営の安定、県内生乳生産量の増加
終期の設定	終期 令和 7 年度 （理由） 平成 27 年度岐阜県家畜改良増殖計画にて、令和 7 年度の県内生乳生産量 48,000 t/年、1 頭当たり乳量 9,200kg/年、経産牛頭数 5,200 頭を目標とし、事業を実施するため。

(事業目標)

<p>・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>○ 令和7年度を目標年度とする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県内生乳生産量 48,000t/年・ 1頭当たり乳量 9,200kg/年・ 経産牛頭数 5,200頭 <p>※ 生乳生産量については減少が著しいため、学校給食用牛乳や県内産生乳指定銘柄の維持に最低限必要な生乳生産量 40,000 t /年を令和5年度目標として当面は酪農基盤の維持に向かっていく。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26年度末)	目標 (R3年度末)	目標 (終期)
① 県内生乳生産量	44,092	40,000	48,000 (R7) 40,000 (R5)
② 経産牛頭数	4,860	5,200	5,200

	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度 (要求)
補助金交付実績	7,506千円	8,231千円	11,216千円	(予算額) 10,306千円	(要求額) 10,306千円
指標①目標	48,000	※40,000	※40,000	※40,000	※40,000
指標①実績	36,710	34,141	32,396	(推計値) 33,454	(推計値) 34,514
指標①達成率	76.5%	85.4%	81.0%	(推計値) 83.6%	(推計値) 86.3%
指標②目標	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200
指標②実績	4,208	3,867	3,670	(推計値) 3,790	(推計値) 3,910
指標②達成率	80.9%	74.4%	70.6%	(推計値) 72.9%	(推計値) 75.2%

※事業目標参照

(前年度の成果)

県内で生まれた乳用子牛の雌の比率が増加し、効率的な乳用後継牛の確保を推進することができた。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>酪農家戸数の減少及びそれに伴う生乳生産量も減少傾向が続くことが予想されるが、生乳生産量を確保するために、酪農家の経営安定を図る必要がある。</p> <p>このため、乳用牛の泌乳能力を十分に引き出し、確実かつ効率的な後継牛を確保していくとともに、増頭意欲のある酪農家を支援していく必要がある。</p>

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）</p> <p>○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
(評価) ○	県内の生乳生産量は年々減少傾向であり、牛乳の需要期には、生乳の供給量がひっ迫することもあり、引き続き生乳の増産に向けた取り組みが必要である。
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）</p> <p>○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価) △	既存農家の増頭は行われているが、それを上回る廃業のため、飼養頭数の増頭が伸び悩んでいる。
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）</p> <p>○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
(評価) ○	平成 27 年度から、2つの継続事業及び新規事業をまとめ、本事業とし効率化を図った。

(事業の見直し検討)

<p>平成 26 年度に事業の見直しにより、乳用牛改良増殖推進事業、効率的乳用後継牛確保対策支援事業、乳用初妊牛増頭対策支援事業を酪農振興対策支援事業に統合した。</p> <p>本事業は、本県の酪農生産基盤の強化に欠かせないものであり、今後も継続していく予定。</p>
--

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

<p>継続・削減・統合・廃止 (理由)</p>
